

様式第1号（第8条、第9条関係）

事業者行動計画書（~~変更計画書~~）

2021年 8月 2日

（宛先）

滋賀県知事

提出者

住所（法人にあつては、主たる事務所の所在地）

東京都中央区京橋三丁目1番1号

株式会社 ブリヂストン

氏名（法人にあつては、名称および代表者の氏名）

代表取締役 CEO 石橋 秀一

代理人 彦根工場 工場長 内田 洋

滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例（第20条第3項・第20条第4項  
第22条第1項・第22条第2項において準用する同条例第20条第4項）の規定に基づき、事業者行動計画を策定（~~変更~~）したので、提出します。

事業者の氏名（法人にあつては、名称および代表者の氏名）	株式会社ブリヂストン 代表取締役 CEO 石橋 秀一
事業者の住所（法人にあつては、主たる事務所の所在地）	東京都中央区京橋三丁目1番1号

1 事業所の概要

事業所の名称	株式会社 ブリヂストン 彦根工場
事業所の所在地	滋賀県彦根市高宮町211番地
主たる事業	細分類番号 1 9 1 1 自動車タイヤ・チューブ製造業
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者
	<input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者
	<input type="checkbox"/> 任意提出事業者

2 計画の内容

計画の内容	別添のとおり
-------	--------

注 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とします。

1 計画期間

計画期間	2021 年度～	2030 年度
------	----------	---------

2 低炭素社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

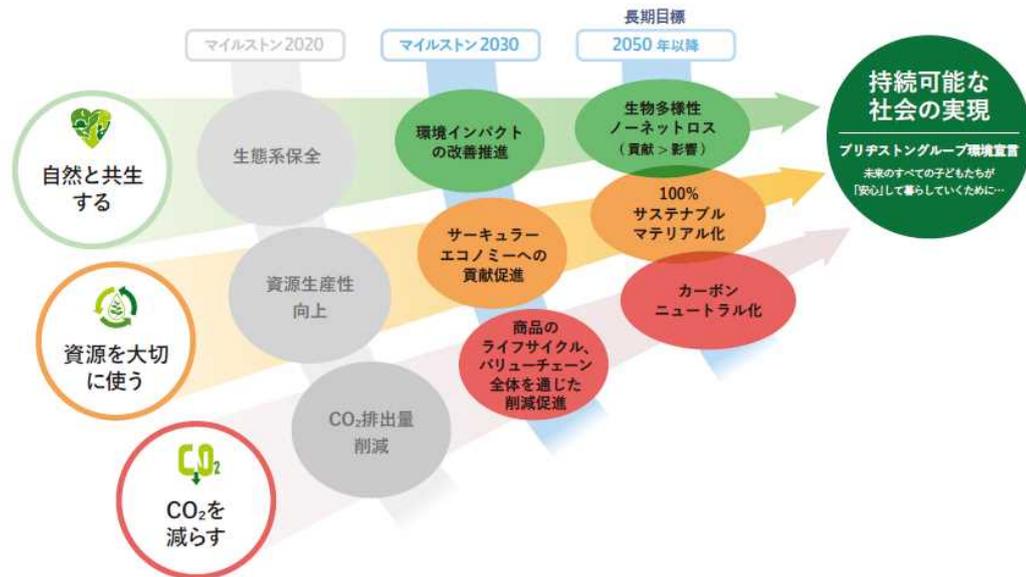
2012 年に当社グループがマイルストーン 2020 を策定して以降、持続可能な開発目標 (SDGs) やパリ協定が採択されるなど、環境をめぐる社会の動きは加速しています。そして、環境問題はグローバルリスクとして最も注視される領域となり、企業経営にとっても、リスクと機会の両面でその重要性が増しています。

今後 2030 年までの 10 年間の取り組みを検討するなかで、当社グループは、環境をめぐる社会の様々な課題が事業に及ぼす影響と、当社グループの事業が社会に及ぼしうる影響について評価を行いました。その評価結果を戦略・事業計画に具体的に落とし込み、「マイルストーン 2030」を策定しています。

**マイルストーン 2030**

- ・環境インパクトの改善推進
- ・サーキュラーエコノミーへの貢献促進
- ・商品のライフサイクル、バリューチェーン全体を通じた削減促進

**ブリヂストングループ 環境長期目標**



持続可能な社会の実現

ブリヂストングループ環境宣言  
未来のすべての子どもたちが「安心」して暮らしていくために...

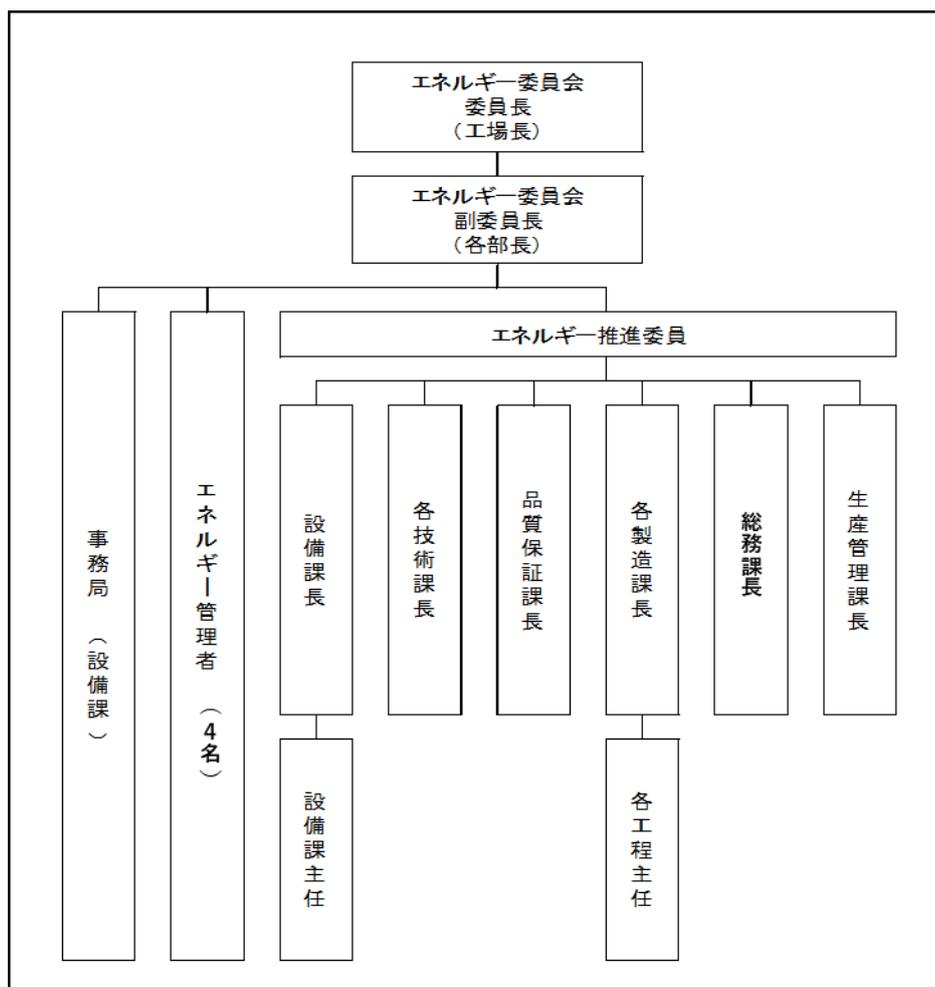
### 3 低炭素社会づくりに係る取組に関する推進体制

#### ■全社的な取組

当社グループでは、中期経営計画に沿って TEAMS の活動を強化するために、グローバルサステナビリティコミッティ（GCEC）とグローバル環境ワーキンググループ（WG）、戦略的事業ユニット（SBU）の3つの組織が調整・協力していく体制をとっています。グループ全体の環境戦略や方針は、グローバル経営執行会議（Global EXCO）の監督のもと、グローバル環境 WG とグローバルサステナビリティコミッティが策定します。承認された戦略や方針は、各 SBU が環境マネジメントシステム（EMS）を通して実践します。グローバル環境 WG は、各地域の環境部門の代表者で構成され、グループ全体の環境活動と地域の環境活動の連携を深める役割を果たします。

#### ■彦根工場での取組

ブリヂストン彦根工場では、地球の燃料資源の有効な利用と、地球温暖化防止を目的とした炭酸ガスの排出量の抑制に寄与することを目的として、彦根工場におけるエネルギー使用の合理化及び管理の方法等に付いて定め、推進の場として「彦根工場エネルギー委員会」を設置しています。



備考 組織図を記載し、役割分担および責任者の役職を記入してください。

(第2面)

4 これまでに取り組んできた低炭素社会づくりに係る取組

■原材料

タイヤや防振ゴムなどの軽量化や、リトレッド事業の拡大が大きなCO2排出量の低減につながりました。また、原材料工場で排出されたCO2回収も推進しました。

■生産

熱と電力を有効的に活用する「コ・ジェネレーションシステム」の国内工場への導入や、CO2排出量の少ない燃料への転換を推進。また、「省エネ診断による改善強化」にも取り組みました。

■流通（輸送・販売）

車両の大型化による1台あたりの積載量の増加や、コンテナラウンドユースによるコンテナ輸送の削減、トラック輸送から鉄道・船舶輸送に切り替えるモーダルシフトなどを推進しました。

■廃棄

使用済みタイヤを有効利用して使用電力の一部を賄う「サーマルリサイクル」や、廃棄物の「マテリアルリサイクル」、また「生産段階のロスの削減」などを推進しました。

## (第3面)

## 5 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	取組の内容	実施スケジュール
1	運用改善 対策	改善目標の設定及び改善計画の作成	2021年～
2		大口工程の格付 (大口工程とは、彦根工場でのエネルギー使用量の80%以上を占める上位工程を指す)	
3		工程毎削減目標の設定	
4		省エネルギー改善計画の作成と実施	
5		i-stop1000の計画と実施	
6		フォロー	
7		全体原単位達成状況(1回/月)	
8		事務局(設備課)による各工程個別巡回(都度)	
9	設備導入、 改善	RE100準拠のクリーンエネルギー調達	2021年～
10		自家発電(太陽光)設置推進	2023年～

※i-stop1000：設備関連の省エネ活動について合計1000施策の積み上げを目指す活動

(2) エネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果 ガスの種類	取組の内容	実施スケジュール
1	HFCs	フロン排出抑制法に基づくフロン機器の簡易・定期点検の継続と補修、ノンフロン機器への更新継続	2021年～

## (3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

<p><b>【省エネ】</b>  対前年エネルギー原単位 ▲1%以上相当の省エネ改善  (エネルギー原単位) = (エネルギー改善量※1) / (新ゴム生産量※2)  ※1 各工程でのエネルギー改善量の合計  (スチーム・エア漏れの補修等、省エネ活動をエネルギー量に換算)  ※2 彦根工場での生産ゴム量</p>
--

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減により低炭素社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容等

商品のライフサイクル、バリューチェーン全体を通じた削減促進に向けて、生産における CO2 排出削減にとどまらず、断トツの商品・断トツのサービスによるソリューションにより顧客価値を提供しながら、お客様の使用時、原材料調達、流通、再利用・リサイクルの過程における CO2 排出量削減に貢献していきます。

主な活動内容

- ・ CO2 削減に貢献する商品及びサービスの開発
- ・ エネルギー効率の継続的改善による総エネルギー消費量の削減
- ・ 使用する電力における再生可能エネルギー比率の向上
- ・ モノづくりイノベーションの推進

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

・ 2030 年までにソリューションの提供により、商品・サービスのライフサイクル、バリューチェーン全体を通じて、私たちの生産活動により排出する CO2 排出量の 5 倍以上の CO2 削減に貢献していきます。(2020 年比)

(第5面)

7 その他の低炭素社会づくりに向けた取組

	取組項目	取組の内容および当該取組により達成しようとする目標	実施スケジュール
1	森林保護活動	■エコピアの森 彦根 滋賀県と「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を締結し、荒神山の一部の森林の整備を行っている。	毎年春、秋実施
2	3R 推進	廃棄物の分別回収およびリサイクル可能な処理先へ搬出を実施することで、完全ゼロエミッションを継続中。また、廃棄物の中でも有価物としてリサイクル可能な品目については、サーキュラーエコノミーの観点から素原料リサイクルおよび外販を推進している。	継続実施中
3	紙削減	基準年（2020年）対比30%の紙資源の削減を目標にコピー用紙使用の削減を推進中。	2021年～
4			
5			
6			
7			
8			